





(一面のつぎ)  
20世紀後半になって野生動物による農林被害や生息地の拡大、個体数の異常増加などが起こっています。その原因の大半は人間。30年くらい前から、子供たちが自然と向き合

昔は、教育の場で情操性を高める意味もあって、動・植物を飼いで、観察するということが重視されていましたが、近年では家畜やカエル、昆虫などにふれ合う機会も少なく、衛生問題などで、ウサギやニワトリなどを飼育し、教育に充てるといふ学校は少なくなっています。だが、地球の生き物を守り、環境の大切さを教えること

チョット一服



人と植物と昆虫の関係

昆虫は人間よりはるか昔から自然の片隅で細々と暮らしていましたが、人間が農耕を始めたことにより、人間が勝手に益虫と害虫に分類しています。益虫とは、人間に何らかの利益をもたらす虫のこと。害虫はその反対。昆虫は生態系の中でとても重要な役割を果たしている。古くから農業に深く関わってきました。昔から人間が家畜として積極的に利用してきたものに、ミツバチとカイコがあります。益虫のなかには両者のように生産物が直接、人間の役に立つものと、害虫駆除など間接的に人

間の役に立つものがあります。また、害虫でも、一生を通じて害を与える種はまれ。種類によっては幼虫は害虫でも、成虫は花粉の媒介などをし、益虫であることも少なくありません。害虫と益虫の明確な区別はなく、人間の利害関係によってこのように呼ばれているだけです。益虫・害虫にかかわらず生態系保全には欠かせない生き物です。だが、稲の大敵ウンカや人間に病気を媒介する蚊など害虫という以外の何者でもないという虫もいます。



テントウムシ

生態系を破壊するシカ被害

が、これからは大切になってきます。現代の環境・獣害問題に思いをはせるとき、二者択一的な目先の結論に飛びつくのではなく、長い期間と広い視野で、今後の自然と人間の橋渡し役として、積極的に環境保全活動に取り組んで活躍する人材を育成することが重要になってきます。特に未来を担う子供たちへの環境教育は極めて重要なことだと考えます。現代の子供たちは、自然の中で野生の生き物と共生・共存しているという実感のない世界で育っています。

シカは1日3キロもの量を食べる大食漢で、あらゆる草木を食べ尽くし森林を裸地化します。下層植生の無い森林は、いわば、未来の無い森林なのです。影響の強いところは、シカの食べない植物シカ生えておらず、そのほかの緑は皆無というところもあります。裸地化により、下層植物が減少し同じ植物を食料や棲家にしてきた昆虫類や小動物にも影響が及び減少します。

HP猿新聞サイトでも不思議なエラーが発生していましたが、先日復旧いたしました。皆さまに大変ご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。尚、猿新聞やHPについてのご意見をお聞かせいただければ幸いです。

餌が最も少なくなる12月中旬〜2月下旬にはユズなど柑橘類に依存することが多くなります。多数の放任ユズや高木化して収穫されていないユズのある集落は何らかの対策が必要で、計画的な無謀な捕獲は慎みたいものです。シカは森の管理人といわれた時代もあったのです。

冬期の栄養源を絶つことが獣害対策の基本です。山の餌だけを食べているサルの個体数増加率は、1年にわずか1%。農作物に依存しているサルの個体数増加率は10%以上といわれています。A群の状況は、上比奈知、つつじが丘周辺への出没が断トツに多くなっています。『最近住宅地への侵入回数が増えています。新しく捕獲サルに発信機が付けられました。A1です。受信感度よく従来のとは明らかに違う感度です。』

サル情報



編集局より  
HP猿新聞サイトでも不思議なエラーが発生していましたが、先日復旧いたしました。皆さまに大変ご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。尚、猿新聞やHPについてのご意見をお聞かせいただければ幸いです。

冬期の栄養源を絶つことが獣害対策の基本です。山の餌だけを食べているサルの個体数増加率は、1年にわずか1%。農作物に依存しているサルの個体数増加率は10%以上といわれています。A群の状況は、上比奈知、つつじが丘周辺への出没が断トツに多くなっています。『最近住宅地への侵入回数が増えています。新しく捕獲サルに発信機が付けられました。A1です。受信感度よく従来のとは明らかに違う感度です。』

餌が最も少なくなる12月中旬〜2月下旬にはユズなど柑橘類に依存することが多くなります。多数の放任ユズや高木化して収穫されていないユズのある集落は何らかの対策が必要で、計画的な無謀な捕獲は慎みたいものです。シカは森の管理人といわれた時代もあったのです。

餌が最も少なくなる12月中旬〜2月下旬にはユズなど柑橘類に依存することが多くなります。多数の放任ユズや高木化して収穫されていないユズのある集落は何らかの対策が必要で、計画的な無謀な捕獲は慎みたいものです。シカは森の管理人といわれた時代もあったのです。

